

# 施策目標個票

(国土交通省4-②)

施策目標	国際競争力・地域の自立等を強化する道路ネットワークを形成する	
施策目標の概要及び達成すべき目標	国際競争力・地域の自立等を強化するため、国際物流に対応した基幹ネットワークや日常の暮らしを支える生活幹線道路ネットワークを構築する。	
評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) ④進展が大きくない  (判断根拠) 業績指標70は当初の予定通り順調に整備が進捗している。業績指標71は主要都市等を結ぶ高規格道路ネットワークの整備は進捗しているものの、都市間連絡速度の実績値としては変化がないため、④進展が大きくないとした。
	施策の分析	国際物流に対応した、基幹ネットワークの構築及び日常の暮らしを支える生活幹線道路ネットワークの構築に向け、三大都市圏環状道路の整備をはじめとした基幹ネットワークや生活幹線道路ネットワーク等を整備してきたところであり、三大都市圏環状道路の整備は順調かつ着実に進捗している。 一方、道路による都市間速達性の確保に関しては、ミッシングリンクが課題となっているところであり、今後もミッシングリンクの早期解消を着実に推進する。
	次期目標等への反映の方向性	引き続き、重点的かつ効率的な道路ネットワークの整備を推進し、国際競争力・地域の自立等を強化する道路ネットワークの形成を推進する。

業績指標	70 三大都市圏環状道路整備率(*)	初期値	実績値				評価	目標値	
		R2年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		R4年度	R7年度
		83%	-	-	83%	84%	84%	A	89%
	年度ごとの目標値	/	-	-	-	-	-	/	/
業績指標	71 道路による都市間速達性の確保率(*)	初期値	実績値				評価	目標値	
		R1年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		R4年度	R7年度
		57%	-	57%	57%	57%	-	B	63%
	年度ごとの目標値	/	-	-	-	-	-	/	/
参考指標	参102 高規格道路のミッシングリンク改善率	初期値	実績値				評価	目標値	
		R1年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		R4年度	R7年度
		0%	-	0%	0%	9%	-	/	30%
	年度ごとの目標値	/	-	-	-	-	-	/	/

施策の予算額・執行額等【参考】	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度要求額
		当初予算(a)	554,020	539,955	539,730	545,665
予算の状況(百万円)	補正予算(b)	159,248	141,127	130,377		/
	前年度繰越等(c)	286,967	365,577	330,112		/
	合計(a+b+c)	1,000,235 <0>	1,046,659 <0>	1,000,219 <0>	545,665 <0>	/
	執行額(百万円)	634,442	713,615	/	/	/
	翌年度繰越額(百万円)	365,577	330,112	/	/	/
	不用額(百万円)	216	2,932	/	/	/

学識経験を有する者の知見の活用	国土交通省政策評価会(令和5年6月26日)
-----------------	-----------------------

担当部局名	道路局	作成責任者名	道路局 企画課 道路経済調査室(室長 四童子 隆)	政策評価実施時期	令和5年8月
-------	-----	--------	---------------------------	----------	--------

業績指標 70

三大都市圏環状道路整備率\*

評価

A

目標値：89% (令和7年度)  
 実績値：84% (令和4年度)  
 初期値：83% (令和2年度)

(指標の定義)

三大都市圏（首都圏、中部圏、近畿圏）の環状道路の計画延長に占める供用延長の割合  
 三大都市圏環状道路整備率

$$= \frac{\text{三大都市圏における環状道路の供用延長}}{\text{三大都市圏における環状道路の計画延長}}$$

(目標設定の考え方・根拠)

令和7年度の目標については、既に供用時期を公表している区間について、供用予定延長を積み上げ。

(外部要因)

地元の調整状況 等

(他の関係主体)

NEXCO、首都高速道路（株）、阪神高速道路（株）（会社区間の事業進捗等）

(重要政策)

【施政方針】

- 岸田内閣総理大臣施政方針演説（令和4年1月17日）「五年間で十五兆円規模の集中対策を進め、引き続き、強い覚悟を持って、防災・減災、国土強靱化を強化します。」

【閣議決定】

- 成長戦略フォローアップ（令和2年7月17日）  
 三大都市圏環状道路等の整備推進や空港、港湾等へのアクセスの強化など規格の高い道路ネットワークの強化を図る（6.（2）iv）

【閣決（重点）】

社会資本整備重点計画（令和3年5月28日）「第3章に記載あり」

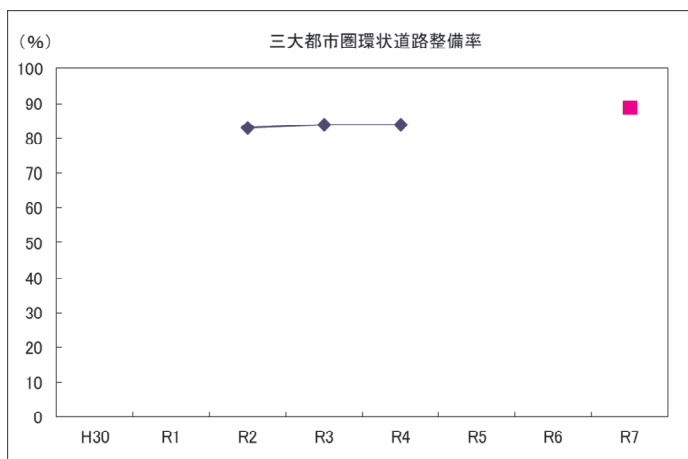
【その他】

なし

過去の実績値

(年度)

H30	R1	R2	R3	R4
-	-	83%	84%	84%



主な事務事業等の概要

三大都市圏環状道路の整備

迅速かつ円滑な物流の実現などのため、三大都市圏環状道路等を中心とする根幹的な道路網を重点的に整備する。

## 測定・評価結果

### 目標の達成状況に関する分析

#### (指標の動向)

三大都市圏の環状道路整備率の実績値は、令和4年度末時点で84%である。

#### (事務事業等の実施状況)

○令和4年度末供用延長約1016km

(令和3年度・4年度新規供用延長約12km)

### 課題の特定と今後の取組みの方向性

○業績指標は、令和2年度の83%が令和4年度末に84%まで向上となっているが、現在の進捗として当初想定していた予定通り順調に進んでおり、今後決まっている事業予定を勘案すると目標年度に目標達成できる見込みであることから、Aと評価した。

○引き続き、目標年度の目標達成に向けて整備を推進していく。

## 担当課等（担当課長名等）

担当課： 道路局 企画課 道路経済調査室（室長 四童子 隆）

関係課： 道路局 国道・技術課（課長 高松 諭）

道路局 高速道路課（課長 小林 賢太郎）

**業績指標 71**

道路による都市間速達性の確保率\*

**評価**

B	目標値：63% (令和7年度) 実績値：57% (令和3年度) 初期値：57% (令和元年度)
---	---

**(指標の定義)**

主要都市等を結ぶ都市間リンクのうち都市間連絡速度（都市間の最短道路距離を最短所要時間で除したもの）60km/hが確保されている割合

道路による都市間速達性の確保率 = 都市間連絡速度60km/h以上の主要都市等を結ぶ都市間リンク数 ÷ 都市間リンクの総数

**(目標設定の考え方・根拠)**

公表している今後の高規格道路の供用予定等により都市間連絡速度の改善が見込める都市間リンクをもとに設定。

**(外部要因)**

高規格道路等の事業進捗等

**(他の関係主体)**

NEXCO（会社区間の事業進捗等）

**(重要政策)**

**【施政方針】**

・岸田内閣総理大臣施政方針演説（令和4年1月17日）「五年間で十五兆円規模の集中対策を進め、引き続き、強い覚悟を持って、防災・減災、国土強靱化を強化します。」

**【閣議決定】**

・社会資本整備重点計画（令和3年5月28日）  
 主要都市等を結ぶ都市間リンクのうち都市間連絡速度60km/hが確保されている割合を令和7年度までに63%とする。（第3章第2節3.）

**【閣決（重点）】**

社会資本整備重点計画（令和3年5月28日）「第3章に記載あり」

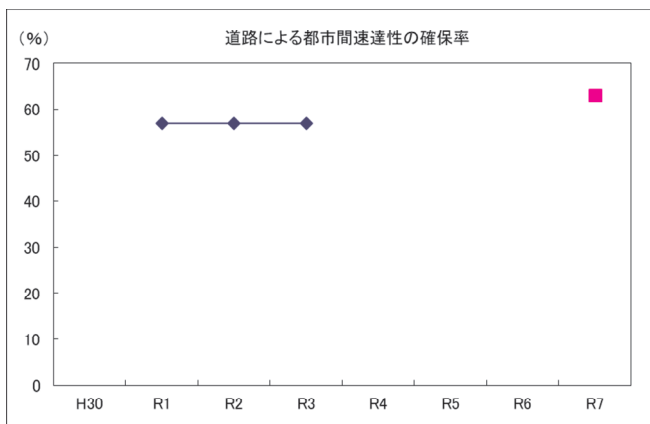
**【その他】**

なし

**過去の実績値**

(年度)

H30	R1	R2	R3	R4
-	57%	57%	57%	-



**主な事務事業等の概要**

地域資源を活かした個性ある地域やコンパクトな拠点を道路ネットワークでつなぎ、距離の制約を克服し、地域・拠点の連携を確保する。

## 測定・評価結果

### 目標の達成状況に関する分析

#### (指標の動向)

○業績指標は、令和元年度から令和3年度にかけてほぼ横ばいに推移しており、進捗は順調ではない。

#### (事務事業等の実施状況)

○令和4年度は東北中央自動車道（東根北 IC～村山本飯田 IC）等が開通済

### 課題の特定と今後の取組みの方向性

○業務指標は、令和元年度から令和3年度にかけてほぼ横ばいに推移して進捗が見られないことから、Bと評価した。指標の向上を阻害している一因としてミッシングリンクが考えられるため、今後もミッシングリンクの早期解消を着実に推進する。

## 担当課等（担当課長名等）

担当課： 道路局 企画課 道路経済調査室（室長 四童子 隆）

関係課： 道路局 国道・技術課（課長 高松 諭）

道路局 高速道路課（課長 小林 賢太郎）